岐阜県学校職員組合

〇２８年度スローガン〇

「希望」が「幸せ」に，「不安」が「自信」に変わる働き方，提案します。

〇２８年度アンケート結果と分析，提言〇

楽しく，働きがいをもって，勤務し続けること

☆８割の先生が楽しく働けており，教員という職業に満足している。

☆今後も岐阜県で定年まで働きたいのは，小６９％，中９５％である。小の理由の「心が折れそうという」が４割。

【分】

小の勤務の大変さが小中で差が出た要因である。

【提言】

・小学校高学年の専科指導体制の充実

【具体的提案】

・特に小経験が長い教員の小から中の人事交流を５０代以降に行う。

・若手指導対応等の名称で，フリーとして配置する。

・勤務時間外の部活動の完全クラブ化を実施する。

超過勤務と負担感

☆中学校勤務者の時間外勤務のボリュームゾーンは４時間程度

【分】

５時間の超勤を，朝１時間，夜３時間の超勤とすると，おおよそ，７時出勤，８時退勤の連続となる。現状，育児，子育てがある教員が中学校で働くことは不可能

【提言】

・朝，放課後部活動休養日実施の徹底。

・勤務時間外の部活動の完全クラブ化を実施する。

☆勤務時間外に行う業務で負担があるもの，

小１位：校内の分掌業務，２位：会議，３位：授業準備や教材研究

中１位：校務分掌　部活動　３位：会議　４位：保護者対応

【分】

小では，勤務時間中に授業準備や評価をする空き時間がないため自分自身のことである授業準備や教材研究が一番後回しになり，遅い時間から始めなければならないことが負担になっている。

【提言】

・小学校高学年の専科指導体制の充実

・部活動休養日実施の徹底。

・勤務時間外の部活動の完全クラブ化を実施する。

・自己存在感や自己肯定感がもてる仕事の仕方をしたい。

【具体的提案】
・伝達のみの会議を行わない（職員会議）。
・小規模校に専科指導支援員，図書作業員等を優先的に配置する。

ワーク・ライフバランス

☆自分の生き方で，平日でも仕事は５～６割で家庭や自身のために時間をとりたい。

【分】
・職務と真摯に向き合う岐阜県の教員であっても，家庭も自分も大切にしたいという意識である。
【提言】
・子供と向き合う時間の確保のためだけに働き方改革をするのではなく，教員の仕事のオン，オフの意識向上のための改革だと岐学組は訴えている。

☆休業日を月に９日と換算した時に，出勤しなかった日は１～２日の回答が中では半数。完全休日が０～２日が７割。
【提言】
・部活動休養日実施の徹底。
・勤務時間外の部活動の完全クラブ化を実施する。

楽しく，働きがいのある職場づくり

☆今の職場が働きやすい人は７５％程度，職場の教職員間の雰囲気がよいと感じる人は８５％程度。
☆「気軽に話せるか」が大きな判断材料。

【提言】
・学級が社会の縮図でもあるように，職員室も大人の世界をよく表した社会の縮図であり，子供達は実はそれをよく見ているということである。人事評価に組織の一員としての人間性を観点として具体的に記述して取り上げ，管理職は面談で各教員からよく情報を聞くことであり，面談の質問のコツを専門家から学ぶべきである。（例）尊敬している先生は？頼りになる先生は？仕事がしにくい先生は？

多忙化の解消

☆多忙化解消の取組は８割程度の人がされていると感じている。
☆ただし，２～３割の人が取組に際し管理職からの圧迫感を感じている。
☆会議の工夫，ノー残業デーの実施，朱書きする物や掲示物の精選が多く取り組まれている。
☆取組の成果の実感の有無は半々。
☆ノー残業デーを作るよりもまず業務量の改善を望む声が大変多い。

【分】
・働き方のマネジメントを個人に委ねないために，圧迫感，強制感を感じる。
・業務の電子化を進める。
【提言】
・健康診断簿等の電子化，電子媒体での保存ができるようにする。

・タイムマネジメント，業務マネジメント等の研修を徹底し，個人裁量の働き方を推奨する。
・特にノー残業デーに全体（全校）で行う業務を制限する（５時間授業などによる業務処理時間の確保）。
・まず，お金をかけずにできる業務量のさらなる改善。（郡市町全体で行う音楽会，水泳大会や相撲大会，展覧会への出品の見直し，地域行事への参加，チラシの配付を縮小したり廃止したりする）

・

☆休憩時間が確保されていない人が多数。自身で確保する工夫をすることは不可能という声が大多数。

【提言】
・小学校高学年の専科指導，外国語科の専科指導の配置の増員。
・生徒指導担当，事務スタッフの配置。
・部活動休養日実施の徹底。
・勤務時間外の部活動の完全クラブ化を実施する。

☆年休を取れても，取れなくても，遠慮や代わりがいないという理由が多い。

【提言】
・定数の改善。

再任用

☆岐阜県の再任用制度を利用したいと希望する人が，小では２割弱，中では４割。そもそも収入を必要としない人が小中とも１割いる。
☆やりがいのある仕事であるからと言う人が，小中とも３割弱。
☆体力がもたない，意欲が続かないという人が小に多い。

【具体的な提案】
・多様な勤務条件，職務内容からの選択が可能になるようにする。（６時間勤務，学担の希望の有無，再任用者の学担の複数担当制等）
・定年延長に伴い，役職定年も６５歳とする。ただし，給与・手当は６０歳以降昇給なし，退職手当は現状維持とする。
・定年延長を見据えたキャリアプランの見直しを進める。

特別支援教育

☆学級に特別な支援を要する児童が３人（３０人学級だと１０％）以上いるという人が，小７割弱，中６割弱。
☆より良い支援のためには支援員の増員を求める声が多数。
☆コーディネーターが機能しているという人は，小で８割，中で７割。
☆特別支援教育に関する研修の必要性を求めている人は大多数。

【具体的な提案】
・定数の改善，または，特に情緒学級で比較的重度の児童生徒が６人いる学級に支援員を重点的に加配する。

・特に特別支援担当経験者を再任用でフリーのコーディネーターとして採用する。（退職校で継続勤務）

土曜授業

☆土曜授業が必要でないという人は，９７．５％。

☆授業時間数の確保には有効であるという回答あり。

☆子供に成果は見られないという人が小中で７割。まだ分からないという回答が３割。

【具体的な提案】

・廃止。社会教育に戻す。土曜授業廃止なら夏休み短縮もやぶさかではない。

・土曜日に教育の機会を求める保護者に対する土曜塾への転換。教員は輪番で受け持つ。ただし，学校の規模により公平さは欠く。

・行事の削減や縮小（何よりも準備や練習に時間を割く）により授業時間を確保する。市町全体で行う行事を削減するなら市町内全校で公平に時間を産み出せる。

部活動

☆部活動の今後については，学校が全面的に負うという回答は１％。外部クラブや各種教室やスクール，部活動のクラブ化に移行し，生徒の自己選択により加入するという意見が８割弱。社会人指導員の増員を２割が求めている。

☆休養日があるという回答が８割。授業日で週１回が７割。休業日で月１回が６割。月３回が２割。

☆過去も含めて長期休業中の活動上限が，２１日以上，なし，と言う回答が４割。

☆休日がない，専門外の担当，生徒や保護者の人間関係，保護者の要求に起因する悩みが多い。手当の少なさや事務仕事の多さ，社会人指導者との意思のずれの悩みもある。

【具体的な提言】

・山間地が多い郡上市（県内人口１４位），県内人口４位の多治見市のクラブ化の取組は岐阜市や大垣市でも本気になったらできる。学校数や外部クラブチームが多い都市部ほど調整や縛りがあるのか。